

日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

* 主な記事：新理事としての抱負、名誉会員ダニエラ氏からのレター、16回大会ご案内など

2022 No.1

2022年6月1日 JPTA事務局 〒453-0036 名古屋市中村区森田町3-6-6
メールアドレス info@j-pta.net FAX: 052-471-0028

本学会は、2022年度より高村豊新理事長のもと、新理事体制が発足いたしました。そこで、今回のニューズレターは、理事の方々の「学会への抱負」につきまして紹介させていただきます。

また、原美智子元理事長におかれましては、本学会を立ち上げられ、名実ともに学会としての体制を構築され長きにわたって盛り上げてこられました。名誉理事長となられましても新体制に沢山のお力をお貸しくくださるようお願い申し上げます。(編集長：中下富子)



日本パペットセラピー学会理事としての抱負

理事長 高村 豊



15年間学会の理事長として、わたくしたちを導いてくださいました原先生の後任として私が理事長の任に就くことになりました。機器の扱いに疎い自分ではありますが、研修委員会、編集委員会にもできる限り参加させていただき、学会の動向把握に努める覚悟です。

数年続くコロナ禍の中で、子どもたちも高齢者の方も、子育て中の方も非常に多くの困難さや課題を受けられていると思います。こんな社会状況だからこそパペットセラピーの活躍する場面が増えてきているのではないのでしょうか。刑事ドラマでもパペットセラピーが取り上げられ注目されてきていることもあります。社会のいろいろな場面でパペットセラピーの取り組みが活発になるよう当学会では、研究実践活動を推進していきたいと考えています。



副理事長 東 義也

この度、副理事長になりました東義也です。現在尚絅学院大学で保育者養成に携わる教員をしております。本学会会則第18条2によると、「副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する」とあります。高村理事長を支え、本学会のさらなる発展のために尽力する決意であります。

ところで、パペットセラピー学会の会員は現在69名です。2007年の設立以来15年経ちましたが、会員数のなかなか増えないことを理事会でもときどき話題にしております。入会はするけれども退会する人も後を絶たないのが現状です。どうしたら学会がパペットセラピーの研究を深め、多様な分野（医療、保育、特別支援教育、心理療法、福祉等）にこの魅力を発信し貢献できるのか。そのあたりをよく検討し改善していければと思っております。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



副理事長 中下 富子

編集委員長を仰せつかり、機関誌（年1回）やニューズレター（年2回）の作成を担当させていただいております。パペットセラピーの理論や有効性を文字媒体でお伝えいたします。会員の皆様の活動や声、ご要望をお聞かせいただき、充実した内容で、より楽しくタイムリーな情報等を提供させていただけたらと思っております。

理事 千葉 俊一

私はこの学会の研修委員長を仰せつかりました。研修委員会は学会の大会に伴った研修会等の企画、運営にかかわる大事な役割があります。この重責を私が全うできるか心配ですが、研修委員の皆さまと一緒に、学会の運営の流れに合わせた準備、企画をしてゆきたいと思えます。新年度に際し、今後の活動目標を考えてみました。1) 研修委員が定期的なミーティングを通してお互いの交流をはかり、情報、知識、経験を共有して研鑽を積んでいくことです。2) 研修会の内容を初心者のための腹話術の基本的指導だけにとどめなくて、パペットセラピーを学ぶ上での習得したい大切なことを学ぶ研修会ができないかを検討し、企画運営をしていくことです。

この2点について研修委員会として達成していきたいと思っています。 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

理事 岡 信行

私は現在、国立音楽院初等部の講師や公立小学校の非常勤講師(音楽専科や個別指導)の傍ら、ソックスパペットの製造・販売・講習会などに取り組んでいます。パペットには、趣味や遊びの域を超えて、教育的な効果を生む力があります。今年度4月に会った子供たちの中には、不登校気味だったり、偏食が激しかったり、なかなか学習に取り組めない子供たちがいますが、ソックスパペットとの出会いをきっかけに、前向きに取り組めるようになってきています。今年度も、ソックスパペット作りや腹話術などを含めたパペットの使い方などをお伝えできればと思っています。詳しい事は、「ソックスパペット工房」のホームページをご覧ください。

○ソックスパペット工房 HP の URL <http://oka-creative-studio.com/socks-puppet/>

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

理事 近喰 ふじ子

上記のお題をいただき、誠に嬉しく思います。今まで他の学会での理事を拝命した際にも、このような事を依頼された事はありませんでした。理事としての筆者への役割が期待されているものと理解し、改めて取り組んでいきたいと考えております。ところで、「パペットセラピー学会」の会員の先生方の多くは、職能団体であるパペット術者である方が多いものと理解していますが如何でしょうか。その他の会員は、教師・教員、心理職、看護職、医師やその他(STなど)ですが、保育士の参加が少ないのに驚いております。保育士と子どもを繋ぐものは「遊び」と理解しているのですが、遊びの開発は保育士としての仕事の一部です。そこで、筆者が考えている事を以下に述べてみました。1) 筆者は保育士への働きかけをおこなっていきたくて考えている。2) 「パペットセラピー学会一総会」は毎年施行されるので、担当者になった理事が研究テーマを提案し、次年度の学会では「シンポジウム」として発表が行えるようにしていける事を期待したいと考えている。研究の発表を行いたい学会員(理事を除く)に対する啓発活動として募集するのは如何でしょうか?学会と学会員とが一体となって運営する一つのやり方というものです。3) パペットがうまくなり、できるようになりたいと希望を願う会員へのサービスの一つとしての「パペット研修会」の必要性を願う者ですが、是非それをパペット術者の先生方に、プログラム制作ならびに、指導方法などの研修会プログラムを期待したいです。以上、3点が理事としての挑戦として述べさせていただきます。

b b b b b b b b b b b b

理事 矢崎 育子

支援学校時代に腹話術を始めました。子ども達を癒し笑顔にする力や発話を引き出す力に強く惹かれ、退職後腹話術師・パペットセラピストになりました。支援学校で学んだ事を活かしながら、障害者や幼児～高齢者の多世代に向けて、各々のニーズに合わせた活動を目指してきました。現在のコロナ禍では活動に様々な難しさが有り、安心できる場づくりや方法についても試行錯誤しながらの実践です。初めての理事で分からない事が多く情報機器にも弱いのですが、全国の会員の皆さんと一緒に、色々な実践や課題を交流し、また理論学習をしながら、パペットセラピーの輪を広げていきたいと思っています。



理事 上原 美子

機関誌「パペットセラピー」の編集委員を仰せつかっております上原です。ここ数年、児童虐待、子どもの貧困、ケアを担っている子どもたちなど子どもを取り巻く環境に関心が向けられてきていることを実感します。もちろん、パペットセラピーの対象は、子どもに限っているわけではありませんが、特に未来ある子どもたちのために寄り添い、パペットの力を借りてコミュニケーションを図り、子どもたちの声を聴ける環境づくりに努めてまいりたいと考えております。また、本学会には地域活動助成金支給制度があります。その制度も活用され、会員の皆様の日常的な活動を機関誌「パペットセラピー」にご投稿ください。ぜひ、会員間で情報共有をいたしましょう。



理事 森平 直子

編集委員を務めさせていただいています。会員の皆様の生き生きとした実践報告の論文を読ませていただくことは、私自身の臨床実践においてもとても参考になります。実践の成果を会員皆で共有することは、我々が支援等の対象者の方々に提供できるパペットセラピーの質の向上を図る上で不可欠だと思います。しかしセラピーの効果やそれが生じたメカニズムというのは外からは見えにくく、報告者自身も無意識にやっていることが大きな意味を持っていることも多いので、共通言語を用いて客観的に報告し、討論をしてセラピーの中で生じていることについて共通理解を深めていく「学会」という場の持つ意義は大きいでしょう。以前から検討を始めていますが、学術大会でポスター発表の形式も取り入れるなど、より多くの会員の方々が気軽に発表し、討論ができる場を増やすことができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

理事 安藤 倫子

今年度、新理事の研修委員に就任致しました。どうぞよろしくお願い致します。普段は腹話術師アンディとして公演や腹話術の基本技術指導にあたっています。私にとって「自分には自分を癒す力がある」と教えてくれたのが腹話術パペットたちでしたので、パペットによる他者とのコミュニケーションが演じ手自身にとってセルフセラピー的な要素を持つ事に以前から注目してきました。また、これまで周囲の方々のお話を伺う中でもその可能性を度々感じてきました。そこに理論的な裏付けがあることを誰でも分る言葉で示すことができたら、パペットセラピーの社会的価値をさらに広めていけるのではないかと考えています。まずは研修委員として、パペットを介して自己表現やコミュニケーションを楽しみながら、基本技術が身につくような研修を考えていきたいと思っています。

理事 出山 雅章

引き続き理事をやらせていただきます。研修委員会に参加させていただいています。今、研修委員会では会員の腹話術の技術の向上のための研修会（それも楽しく参加できる研修会）を企画しています。会員のみならずにはどんどん参加していただきたいと思います。いずれ腹話術技能以外にも「セラピー」や「ボランティア」などパペットを使った実践に関する研修会を持てるとういと思っています。個人的には今年から相談の仕事をするようになりました。昨年の大会で、「パペットセラピー実演」の試みをやってみて、「パペットが人の心を開く力」を再認識させられたので、今年は是非プレイセラピーの中でその力を生かしていきたいと思っています。うまくいったりいかなかったり、試行錯誤の日々ですが、いろいろ試してみたいと思います。

理事 須賀 綾子

私は群馬大学在学中に前理事長の原美智子先生に師事し、先生からパペットセラピーのことを教えていただきました。現在は教育関係の仕事をしています。子ども達とのコミュニケーションや学習ツールとしてパペットを使っています。また時々パペット作りのワークショップも行っています。最近あまり活動の機会がありませんが、できる範囲で頑張っていきたいと思っています。

「ダニエラ・ハダシーさんからの東日本大震災お見舞いメール」

原 美智子 (名誉理事長)

JPTA 名誉会員のダニエラ・ハダシーさん (イスラエル) は、学会を通して、東日本大震災のあった年から被災地支援として何度も東北の子どもたちのメンタルケアにやってきました。第1回目の来日は地震発生の5か月後の2011年8月6日の第5回大会 (大会長: 中下富子教授) で、これから行う被災地支援の「ヒブキプロジェクト」の講演をされ、大会参加者全員に犬のぬいぐるみ (ヒブキパペット) をプレゼントされました。そして、その足で大船渡市の子どもたちのところへ向かいました。

その後も忘れずに3月の記念日になると、お見舞いのメールを送ってくださいます。ある年は、パペットセラピー活動先のインドからも送られてきました。今年もまた前日に、11年目のお見舞いメールが届きました。ご紹介します。



2022年3月10日

親愛なる原美智子教授

お元気ですか？

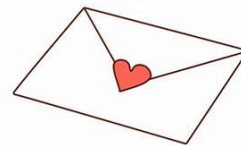
コロナ禍の中、ご無事でおられることを願っております。明日はMega-tsunami (大津波) の被災3月11日の11年目の記念日ですね。私は明日、日本の方々と共にこの日を思い出します。

ここイスラエルでは、コロナ流行は少し収まってきましたが、子どもたちや青年の心の問題 (うつ、自殺、摂食障害、その他の精神疾患) を心配しております。

今、パペット導入またはパペットなしで、彼らへの治療に大変忙しくしております。あなたも日本の子どもたちのCOVID19による心の問題を感じておられますか？私の友人Efrat Machikawa (彼女の夫は日本人) は東京のイスラエル大使館の科学文化部門 (Science and Culture Affairs Attaché) の主任になりました。彼女はマスクットと私が日本に滞在した際によく世話をしてくれました。通訳の志保さんを見つけてくれました。

I wish you good health,

お元気で ダニエラ



2022年3月13日

親愛なる原美智子教授

お返事ありがとうございました。

マスクットにもあなたにお便りしたことを報告メールしました。彼女もあなたによろしくと言っております。私たち二人は論文のことや、被災地支援についてのたくさんの思い出をもっております。

ところで、スーザン・リンさんのメールアドレスをご存知でしたら教えてください。私のパペットによるトラウマプロジェクトのことをお伝えしたいと思います。

今週、2つの団体からウクライナから避難した子どもたちの支援を依頼されました。只今、イスラエルは、特別な状況にあります。過去40年間に、100万人の人がロシアとウクライナから来ましたが、今また多くの人が逃れてきています。それで、今、彼らを支援するために、ロシア語を話せる仲間とともに、トラウマパペットセラピーやワークショップをしようと考えております。

とても心を痛めており、またあの被災地支援の時のように、今、パペットを200から300体を作る仲間もおります。

お元気で ダニエラ



日本パペットセラピー学会第16回大会のご案内

テーマ：「コロナ禍における子どもたちへのパペットセラピーの可能性を考える」

日時：2022年10月30日（日）〈ZOOMによるオンライン開催〉 29日（土）前夜祭

大会長：中下 富子（群馬パース大学看護学部教授・副理事長・パペットセラピスト）

副大会長：根岸 衣美子（立正大学非常勤講師）、須賀 綾子（日本語指導員）

テーマに迫るために、まず、コロナ禍における幼児期から青年期に至るまで幅広く様々な子どもたちのおかれている状況について、お二人のご講演を企画いたしました。他、研究発表やシンポジウム等につきまして計画しております。研究発表を予定されております会員の皆様は、中下までご連絡をお願いいたします（nakashita@paz.ac.jp）。

教育講演には、都丸千寿子先生（群馬パース大学福祉専門学校副校長）をお招きしております。都丸先生は、幼稚園・小学校教育においてリーダー的な立場でご活躍されており、子どもたちを研ぎ澄まされた感性で捉えられたご講演が期待できます。また、特別講演には、竹内一夫先生（群馬大学健康支援センター副センター長）をお迎えしております。竹内先生は、精神科医として青年期にある生徒や大学生に日々多様な生徒や学生の支援をされており、今だからこそ、子どもたちに何が求められているのか、臨床に即したご講演が期待されます。

日本パペットセラピー学会地域活動助成金申請について

本学会の目的達成のための各地域における各種活動に助成金を支給しております。各種活動とは、パペットセラピーに関する研究会、講習会、講演会、その他理事長が適当と認めた活動で、営利を目的としないものとしています。助成金は、団体または個人単位で申請するものとしており、1年度に1万円としています。助成金を申請する場合には、「日本パペットセラピー学会地域活動助成金交付申請書」及び「日本パペットセラピー学会地域活動報告書」の提出、さらに学会誌への記事とすることが求められます。支援金は書類が受理されれば、2週間以内に指定口座に振り込まれます。地域活動の発展のために、この助成金をご活用ください。詳細は、学会ホームページをご覧ください。

事務局だより

4月から新体制になり事務局作業を担当させていただくことになりました。

住所変更やアドレス変更をお知らせくださらなかった会員さんがいらっしゃいました。変更された場合は事務局までお知らせください。

今後は、会員の皆様全員に会費の口座引き落とし、振り込みのご案内や、大会や研修会の予定など一斉メールでご案内いたしますのでご承知ください。

会員の皆様からのご要望に迅速に対応したいと考えていますが、作業に慣れるまで対応をしばらくお待ち頂くことがあるかもしれません。

時々では学会のホームページをご覧くださいありがとうございます。よろしくお願いたします。

